DJ-PHM10 設定スイッチについて

本機は用途に合わせて、より使いやすくするためにカスタマイズすることができます。ここでは各種スイッチの設定について、製品同梱の説明書よりも詳細にご説明します。

【　重要　】

[ゴムキャップについて]
スイッチの設定をするために、本体裏面のゴムキャップを開閉します。まずヘルメットに取り付けるためのクリップ部分を外しておきます。さらにキャップを開ける前の「隙間が無く、正しく閉まった状態」を覚えておきます。先端が丸い、書類を止めるゼムクリップのようなものを穴の開いているところに差し込んで持ち上げると簡単に開きます。固いドライバーのようなものはゴムや樹脂を痛めて、最悪の場合そこから浸水する可能性があるのでご注意ください。閉じるときは低い方をラベルが貼ってある方に、高い方をスピーカー側になるようにして、一番端をぐっとスイッチ穴に押し込んだあとで、指で押しながら横方向にスライドさせるようにはめ込みます。最後に浮いた部分をゼムクリップや指で押しこんで、最初の状態になるように隙間を無くしてください。全体を一度に押し付けるほうが、はまりにくくなります。コツをつかめば簡単にできるようになります。隙間があるとやがてキャップが外れて紛失したり、汗や雨など水分が浸入したりして故障の原因となりますので、必ずしっかりと隙間や浮きがないように装着してください。

[主電源スイッチ]

右側の 10 番スイッチは使い始める前に、必ず ON に！長く使わないときはオフに！
内蔵電池が過放電しないよう、右側のスイッチの一番右の１０番スイッチは下側のオフ状態になっています。これをまず上側に切り替えてください。これをしないと電源が入りません。長期間（月単位）使わないときはオフに戻すと電池が劣化しにくくなります。これを怠って年単位で放置していると最悪の場合、使用（充電）回数に関わらず電池が劣化して交換が必要になります。

[勝手に設定を変えないで]
同梱の説明書にあるチャンネルやグループ番号設定などを自分で行っていない方は、このセットモード設定も勝手に変更しないでください。本機はエアクローン機能で、スイッチの組み合わせに関係なく各種設定を書き換えることができるうえ、設定を表示してくれる液晶もありません。ですから、弊社カスタマーサービスに「元に戻したい」と相談されても元の状態が分からないためサポートができないのです。
管理者が居なくなった、誰が設定したか分からない、というときは面倒でも全員の無線機をリセットして、新たに同じ設定に合わせ込むのが一番手っ取り早くて確実な方法です。本機同士であれば一台だけ設定すれば、その内容を残りの無線機に一度でクローンできます。エアクローンの方法は専用の別紙説明書に記載しています。

[左側スイッチ（６極スイッチ）の 設定項目]

[設定スイッチ]
マイク・イヤホン端子が下にくるようにしてゴムキャップを外すと、下記の絵のように左に６極、右に１０極のスイッチが見えます。このスイッチを上下に動かして設定を行います。「ON にする」とはスイッチの左端に小さなＯＮの刻印があるように上側に切り替えることを、「OFF(オフ)にする」、とは下側にすることを指します。スイッチの切り替えには、カッターやピンのような先端が鋭利で固いもの、ドライバーの様に太いものは避け、例えば竹串や爪楊枝、ボールペンのようなものをお使いください。設定後は必ずゴムキャップを元通りに取り付けてください。

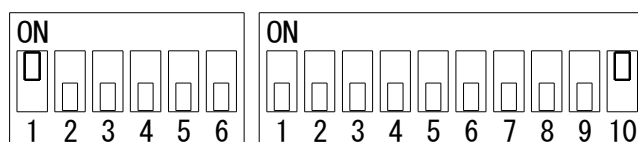
[スイッチの優先順位]
スイッチ設定には、前後の機能が関連して「ＡにしたいときはＢをこうする」のような組み合わせの条件が付くものがあります。重複して設定できる機能や、間違えてスイッチを重複して操作した時の

優先順位は以下となります。

- 2番（中継子機）と3番（同時通話）は2番が優先です。
- 3番（同時通話）と4番（ショックセンサー）は3番が優先です。併用できません。
- 2番（中継子機）と4番（ショックセンサー）は併用できます。
- 5番（温度センサー）は、2〜3番全ての通話モードで4番も一緒に併用できます。

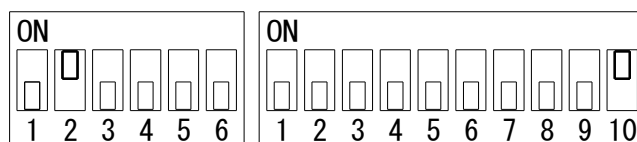
左1番：グループトークを使う

設定値 ON / OFF（初期値 OFF = 使わない）

グループトークを設定すると、同じグループ番号のトランシーバーとだけ通話することができ、混信による他人の通話を聞かずにすみます。ノイズを減らせることもあるので、設定して使うことをお勧めします。（秘話や混信除去機能ではありません。番号が合わない、他のグループの人の声を聞かずに済むだけです。）
1番をONにするとグループトークができます。初期値ではグループ番号1に設定されますが、多くのユーザーがこのまま使うので混信しやすく、グループトークを使う意味が薄れます。余り使われていなさそうな番号に変えることをお勧めします。

グループ番号を変えるにはダウンキーを押しながら電源を入れます。「グループを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押してグループ番号を選びます。番号が音声ガイドされます。PTTキーを押して確定します。

左2番：交互通話と交互中継通話用のチャンネルを切り替える、中継子機に設定する

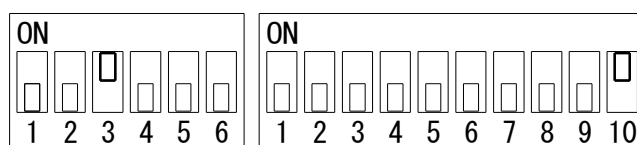
設定値 ON / OFF（初期値 OFF ＝ 交互通話L1 〜 L9、B1 〜 B11 / 20 チャンネル）

無線用語で言う単信（シンプレックス用）20chか、半複信・複信（セミ/フルデュープレクス用）27chのどちらを使うかを選ぶスイッチです。２番をONにすると中継通話用 L10 〜 L18、B12 〜 B29（27チャンネル）に切り替わります。３番の同時通話設定をしない初期状態では、本機は「中継器にアクセスできる子機状態」になります。
チャンネル番号を変えるにはアップキーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押してチャンネルを選びます。番号が音声ガイドされます。PTTキーを押して確定します。

中継してカバーエリアを広げるには、別途中継器が必要です。中継器の設定にある「周波数方向」はB側（440MHz受信／421MHz送信）にしてください。

左3番：同時通話モードにする

設定値 ON/OFF（初期値 OFF = 交互通話）

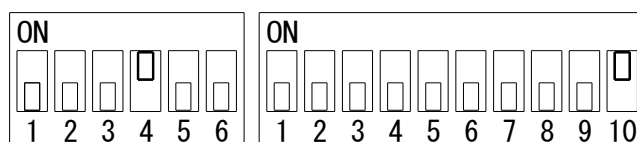
２番がオフであることを確かめたうえで、3番をONにすると同時通話モードになります。

PTT 操作をすると送信、放して受信（待ち受け）の交互通話と同じ状態でも使えますが、同時通話をしたい２名が互いに送信状態になっている間は２人の間で「もしもし、はいはい」の同時通話ができます。ＰＴＴホールドや、アクセサリー側のＰＴＴロックを使って送信状態を保持しているときはずっと同時通話ができます。

チャンネル番号を変えるにはアップキーを押しながら電源を入れます。「チャンネルを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押してチャンネルを選びます。番号が音声ガイドされます。PTT キーを押して確定します。

同時通話モードでは、１番スイッチの設定に関わらず、自動的にグループトーク機能が働きます。グループトークを解除することはできません。１番スイッチ設定の時にグループ番号を変更していたらそのグループ番号に、グループ番号を設定していなかったら自動的に１番が割り当てられます。
グループ番号を変えるにはダウンキーを押しながら電源を入れます。｢グループを選択してください」と音声ガイドされたらアップキーまたはダウンキーを押してグループ番号を選びます。番号が音声ガイドされます。PTT キーを押して確定します。

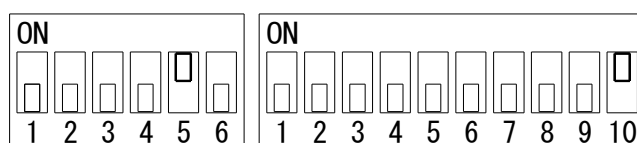
<u>左 4 番：ショックセンサーを使う</u>

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

4 番を ON にするとショックセンサー機能が有効になります。

無線機本体が傾いたり、無線機本体に衝撃が加わったりすると、警報を音声ガイドして送信します。

<u>左 5 番：温度センサーを使う</u>

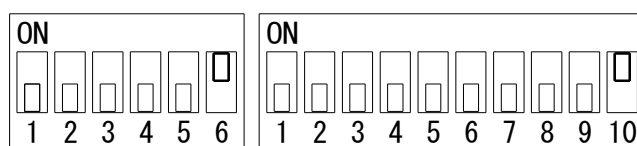
ON/OFF（初期値 OFF）

5 番を ON にすると温度センサー機能が有効になります。

無線機内部の温度が設定以上の温度になると、警報が音声ガイドで流れます。送信はしません。

【メモ】
・無線機管理者がカスタマイズのために使う「セットモード」でこれらセンサーの動作に関するカスタマイズができます。ウエブサイトのダウンロードページ、特定小電力無線のコーナーに「セットモード説明書」を掲載しておりますのでご覧ください。ただし管理者以外の方が勝手に設定を変えて不具合が出ると自分ではもとに戻せなくなり、弊社サービスセンターでも対応できないことがあります。自分が設定したものでないときは、まず管理者にご相談ください。

左６番：PTT ホールド（送信保持）を使わない

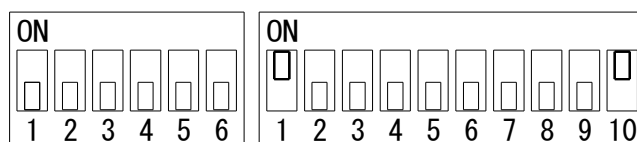
設定値 ON/OFF（初期値 ＝ PTT ホールドを使う）

6 番スイッチを ON 側にすると PTT ホールド（送信保持）機能が解除されます。

送信中は PTT キーを押し続け、待ち受けに戻る時は放します。テキパキした短い連絡が多ければ２度スイッチを押すＰＴＴホールド運用より便利な場合もあります。

[右側スイッチ（１０極）設定項目]

右１番：VOX（音声検出送信）を使う

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

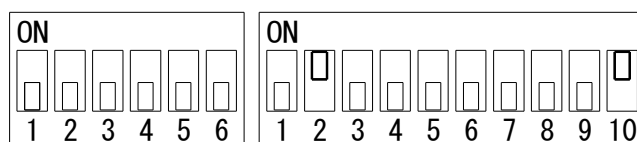
1 番を ON にすると VOX が有効になります。

PTT キーを押さなくても自動的に送受信を切り替えることができる機能です。マイクに音声が入れば送信、音声がなくなれば待ち受け（受信）状態になります。

注）・音声以外で送信してしまうような、周囲の騒音が大きな場所では VOX 機能は使えません。
- VOX 運用中は音声入力から送信開始までに若干の遅延が起こるため、音声の初めが途切れる場合があります。「了解です、～」や「はい、～」など、途切れても支障がないような言葉を挟んで話し始めると通話しやすくなります。
- 同時通話でも VOX は有効です。ただし付属ブームマイクやオプションのマイク、イヤホンを使っていないときだけ、ハウリングするのでＶＯＸは無効になります。

【メモ】無線機管理者がカスタマイズのために使う「セットモード」でＶＯＸ感度と遅延時間の変更ができます。ウエブサイトのダウンロードページ、特定小電力無線のコーナーに「セットモード説明書」を掲載しておりますのでご覧ください。ただし管理者以外の方が勝手に設定を変えて不具合が出ると自分ではもとに戻せなくなり、弊社サービスセンターでも対応できないことがあります。自分が設定したものでないときは、まず管理者にご相談ください。

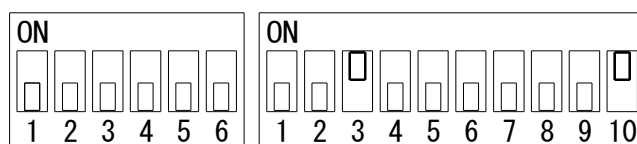
右２番：ビープ音と音声ガイダンスを使わない

設定値 ON/OFF（初期値 ON）

2 番を OFF にすると本体から鳴るビープ音（操作音）と音声ガイダンスが鳴らなくなります。

チャンネルやグループ番号、減電池お知らせなど、すべての音声ガイダンスが鳴らなくなります。

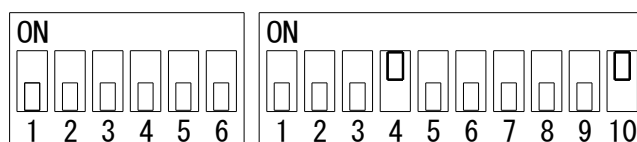
右 3 番：コンパンダー（雑音低減）を使う

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

3 番を ON にするとコンパンダー（雑音低減）が有効になります。

コンパンダー（雑音低減）は通話中に聞こえる「サー」というかすかなバックノイズを低減します。できます。但しコンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ず OFF にしてください。かえって音質が悪くなります。

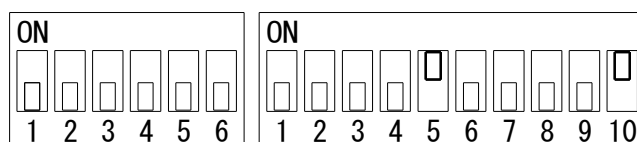
右 4 番：同時通話を第三者がモニターできる「同時通話ループ」を使う

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

4 番を ON にすると同時通話ループが有効になります。

同時通話ループを使うと、同時通話中の二人の会話を第三者がモニターできます。３人以上で、任意の人同士で同時通話をするときはＯＮにしてください。２名だけで使うとき、この機能をＯＮにすると自分の送信中の声が聞こえます。（自声モニター機能）

右 5 番：スタートピー/エンドピー（送信開始/終了音）を使わない

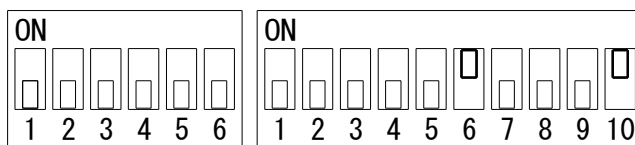
設定値 ON/OFF（初期値 ON）

初期状態では送信開始時に「ピッピ」と知らせ（相手には音は聞こえません）、送信終了時に「ピッ」と相手に通話が終わったことを知らせるビープ音が鳴ります。
5 番を OFF にするとこのスタートピー/エンドピー（送信開始/終了音）の両方とも鳴らなくなります。

送受待ち受け状態が目視できない本機では、音が鳴る状態を初期値にしています。

右 6 番：送信出力設定を変える

設定値 AUTO / Hi（初期値 AUTO＝自動）

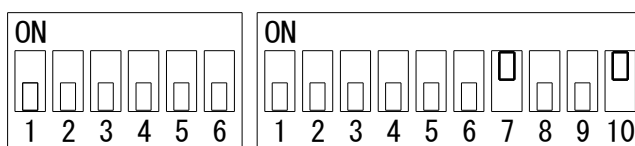
6 番を ON にすると同時通話ビジネスチャンネル（ｂ１２～ｂ２９）の送信出力を 10mW で固定できます。通話距離を伸ばすことができますが通話時間は 3 分間ごとに２秒、強制的に待ち受け状態に戻さ

れ、その時に別の通信はあれば、それが終わるまで復帰しません。これはチャンネルの独占を禁止するため、すべての特定小電力トランシーバーに義務付けられた機能です。

初期値の自動設定では、同時通話ビジネスチャンネル（ｂ１２～ｂ２９）は出力が自動的に 1mW になり、3 分制限のない連続通話ができますが通話距離は通常の半分程度まで狭くなります。その他の通話モードでは送信出力は 10mW になります。

【メモ】無線機管理者がカスタマイズのために使う「セットモード」で、全チャンネルを 1mW に固定することができます。ウエブサイトのダウンロードページ、特定小電力無線のコーナーに「セットモード説明書」を掲載しておりますのでご覧ください。ただし管理者以外の方が勝手に設定を変えて不具合が出ると弊社サービスセンターでも対応できないことがあります。<u>自分が設定したものでないときは、まず無線機を初期設定した管理者の方にご相談ください。</u>

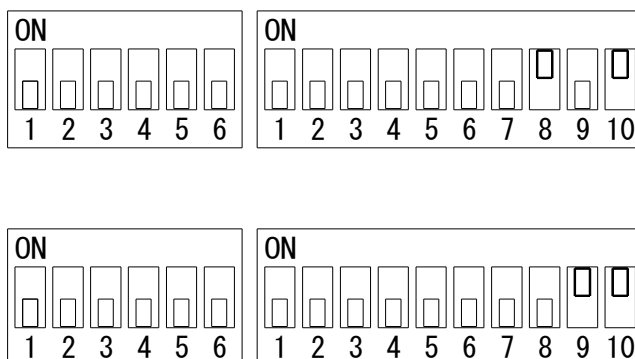
<u>右 7 番：コールバック（音声モニター）を使う</u>

設定値 ON/OFF（初期値 OFF）

7 番を ON にするとコールバック（自声モニター）設定が有効になります。

コールバックを使うと送信中にスピーカー・イヤホンから自分の声が聞こえます。送信状態がＬＥＤや液晶で目視できない本機では、「送信している事」が分かるので便利です。ループ機能をＯＮ状態で２者間同時通話をすると聞こえる自分の声と、このコールバックは異なるものですが、設定状態による不具合や弊害はありません。

【ご注意】
本体単体でお使いの時はハウリングが起こるため、有効にしないでください。有効にするときはフレキシブルマイク、イヤホンマイク、イヤホンのいずれかを装着してください。

<u>右 8 番と 9 番: 別売のイヤホンやイヤホンマイクを使う</u>

設定値 ON/OFF（初期値は共に OFF）

使うアクセサリーによって、スピーカーとＰＴＴキーの割り当てを変える必要があります。
付属のブームマイクを使うときは８番と９番は OFF にします。（初期値に戻す）

オプション	10 極スイッチ		マイク	音声出力先	PTT(送信)キー
	8 番	9 番			
付属フレキシブルマイク（初期値）	OFF/下	OFF/下	付属マイク	本体	本体
イヤホン（オプション）	ON/上	OFF/下	本体	イヤホン	本体
タイピンマイク（オプション）	OFF/下	ON/上	タイピンマイク	本体	タイピンマイク側のPTT
イヤホンマイク（オプション）	ON/上	ON/上	イヤホンマイク	イヤホンマイク	イヤホンマイク側のPTT
マイク/イヤホン端子に何も接続していない。	不問		本体	本体	本体

【重要】　右 10 番：メイン電源スイッチ

冒頭でご説明したように、初めて使うときにＯＮにします。長く使わないときはオフにすると内蔵電池の劣化を防ぐ効果があるため、活用されることをお勧めします。

＊１月程度使わないときは満充電して、直射日光が当たらない乾燥した常温の場所に保管してください。特に高温高湿度の場所は避けてください。電源が入っていなくても、わずかですが待機電流があるため電池は放電します。減電状態で長期保存すると過放電状態になり電池の劣化が進みます。

＊３か月以上使わないときは満充電にせず、減電池表示も出ない状態で１０番スイッチをオフにして同様に保管してください。（リチウムイオン電池の保存に推奨されているのは５０％程度の充電状態です。）

１０番スイッチがＯＮ状態のまま長期間放置すると、電池が劣化して充電できなくなる場合があります。

以上

アルインコ(株)電子事業部